

タイトル

フアニーたい焼きトム♡ かりんとう

あらすじ

東京の片隅にあるたい焼き屋『たい焼きトム』。店主トムはアメリカからやってきた陽気な男。モットーは「どうせ作るならフアニーなたい焼きを！」。彼の奇抜な発想は毎回周囲を驚かせるが、今回は「かりんとうたい焼き」に挑戦。

試作と大失敗、周囲の困惑を経て、ついには巨大かりんとうたい焼きを作るイベントを開催。しかし、その裏では隣町のたい焼き屋がスパイとして様子を探りに来ていた――。

奇想天外なアイデアが飛び交う、笑いと感動のハイテンションコメディ。

登場人物

トム：30代前半のアメリカ人。たい焼きへの情熱とエンターテインメント精神で店を盛り上げるが、常に奇抜なアイデアで周囲を振り回す。

魚住（うおおずみ）：20代前半の女性。トムのたい焼き店でアルバイト中。常識人で、トムのアイデアに困惑しながらもその情熱に巻き込まれる。

佐藤さん：常連客の中年女性。トムの奇抜なたい焼きに毎回驚きながらも楽しんでいる。

スパイ店主：隣町のたい焼き屋の店主。トムの噂を聞きつけ、スパイとして来店。

その他の客たち：学生、インフルエンサー、家族連れなど個性豊かな人々。

シーン：朝のたい焼きトム

「店内、朝。明るい光が差し込む。トムが陽気に歌いながら準備中。魚住が眠そうに出勤してくる。」

トム：（大声で）おはよう、魚住！今日も世界一フアニーなたい焼きを作るぞー！

魚住：（あくびしながら）おはようございます。今日は何を作る気なんですか？

トム：（ドヤ顔で）見てくれ！これだ！（カウスターに山積みのかりんとうを置く）

魚住：（目を丸くして）これ、かりんとうですか？まさか、たい焼きに入れるつもりじゃ…

トム：（指をさして）その通り！甘くてカリカリ、最高のアクセントだ！

魚住：（ため息）お客さんが食べる前にピ
ツクリしそう…

トム：（自信満々に）ピツクリが大事なん
だ！エンタメ魂を忘れるな、魚住！

シーン② 試作とハプニング

「キッチンでトムがかりんとうたい焼き
を試作中。魚住がその様子を不安げに見
守る。」

トム：（真剣な表情）魚住、ただ詰めるだ
けじゃダメだ。特製の甘じよっぱいソー
スも必要だ。

魚住：（疑わしげに）ソース？たい焼き
に？

トム：（熱く語りながら）そうさ！かりん
とうが踊る味だよ！

「トムがソースを作るが、鍋からあふれ出して煙が上がる。店内に独特な甘い香りが広がる。」

魚住：（慌てて）トムさん！鍋！

トム：（笑顔で）大丈夫、大丈夫、これはアートだ！

「完成した試作品を試食。魚住が恐る恐る一口食べる。」

魚住：（驚いた表情）意外と…いけるかも？でも、甘さが強すぎませんか？

トム：（大げさに）甘さは正義！

シーン③：常連客の反応

「最初の客、佐藤さんが来店。店内はかりんとうの香りで充満している。」

佐藤さん：(笑顔で)おはよう、トムさん！
今日のたい焼きは？

トム：(満面の笑み)今日のスペシャル
は、かりんとうたい焼き！食べると心が
踊る、アメリカンスピリットを込めた新
作だよ！

佐藤さん：(眉をひそめて)アメリカンス
ピリット？たい焼きに合うのかしら…

トム：(胸を張って)信じて！僕が全身全
霊を込めて作ったんだ！試してみればわ
かるさ！

魚住：(急いで試食用を準備)はい、佐藤
さん。熱いので気をつけてください。

佐藤さん：(かりんとうたい焼きを手を取
り、一瞬迷ったあと口に運ぶ)…

佐藤さん：(驚いたように目を見開き)あ
ら、これ、思った以上にいいじゃない！

カリッとしていて、それでいて中の甘じよっぱさがクセになるわ。

トム：（得意げに）そうでしょ？それが僕のファニー・フュージョン！

佐藤さん：（笑いながら）毎回驚かされるけど、今回は特にいいわね。でも、トムさん。次はもう少し和風のテイストも取り入れてみたらどう？

トム：（真剣な顔で）和風？それなら抹茶かりんとうとか…いや、海苔かりんとう？！

魚住：（小声で）どんどん変な方向に行きそう…

シーン♪ 巨大たい焼きイベント

「町の人々が集まり、トムが「巨大かりんとうたい焼き」を披露するイベントを開催。」

トム：（マイクを握って）みんな、これがない焼きの未来だ！僕の魂を込めた、究極のフアニーたい焼きだよ！

魚住：（小声で）トムさん、緊張してません？

トム：（笑いながら）魚住、僕に失敗の二文字はないんだ！

「巨大たい焼きが焼き上がり、特大のフライ返しでひっくり返すシーン。会場の人々が歓声を上げる。」

客：学生：（スマホを掲げて）これ、インスタ映えする！すぐ投稿しなきゃ！

客：家族連れの母親：（子供たちに向かって）ほら、写真撮るよ！笑って笑って！

客☹️：年配男性：（目を細めて）この香り：
昔おばあちゃんが作ってくれたかりんと
うを思い出すなあ。

トム：（満面の笑みで）ありがとう、みんな！このたい焼きが、君たちの心に笑顔
を届けたら僕はそれで満足だ！

魚住：（小声で）トムさん、やっぱり変わ
ってるけど：：なんだかんだで凄い人だ
な。

「巨大たい焼きを切り分けて配るシーン。
人々が次々と口に運び、笑顔になる様子
が描かれる。」

エピローグ… 隣町のスパイ登場

「イベントが終わった夜、店内は少し静か
になっている。トムと魚住が片付けをし
ていると、怪しげな男が入ってくる。」

スパイ店主：（低い声で）こんばんは…ここが噂の『たい焼きトム』ですね。

トム：（振り向いて笑顔）そうだよ！ここは笑顔とフアニーなたい焼きの樂園さ！初めて？

スパイ店主：（落ち着かない様子）は、はい。噂を聞いて…一度見てみたくて。

魚住：（不審そうに）怪しいなあ…

トム：（気にせず）いいね！新しいお客さんは大歓迎だ。今日はかりんとうたい焼きがおすすめだよ！

スパイ店主：（戸惑いながら）それを一つ…

「スパイ店主がかりんとうたい焼きを食べる。驚きの表情を浮かべ、次第に笑い出す。」

スパイ店主：（思わず）くっ：こんなに美味しいなんて！

魚住：（呆れながら）笑ってるけど、大丈夫ですか？

スパイ店主：（急に真顔で）でも、こんな奇抜な発想：我が店じゃ真似できない！

トム：（ウィンクして）でしょ？それがフアニーの力だよ！

スパイ店主：（苦笑しながら）参ったな：また来ます。

魚住：（呆然と）トムさん、あの人が絶対普通の客じゃなかったですね。

トム：（笑顔で）いいんだ、魚住。フアニーなたい焼きは、どんな人の心も掴むからね！

「スパイ店主が去り、トムが片付けを再開。店内には温かい笑い声が残る。」